

旧町ごとにそれぞれ活動している女性の団体が、男女共同参画社会の実現に向けて市全域で活動を行うために始めたのが本会の前身となる「なんたん女性のネットワーク仕掛け人会議」。そして平成21年6月27日に「女性ネットワーク会議」を設立しました。市内の女性たちが親睦を図りながら、住み良い地域社会を築くために取り組んでいます。

その学習と啓発の機会として、「キラリなんたん」というフォーラムや、「キラリなんたんカフェ」などを開催しています。このカフェは、男性にも参加していただいて、コーヒーなどを飲みながらざっくばらんに会話をする場です。9月に開催したときも、年配の男性が普段の生活の中のちょっとした心掛けが男女共同参画につながる実感されたことを話していただき

ました。大変有意義な活動で、定期的に開催していきたいと思っっています。また、会員の活動を紹介するホームページの開設もしたいです。つながりが広がり、知り合いや仲間が増えていくことは楽しみです。

女性がはつらつとしているまちは元気だと思えます。南丹市の男女共同参画行動計画（平成21年3月策定）にもあるように、市役所でも女性の管理職の割合が少なくも30%になるように努めていただき、あらゆる分野において男女間の格差を改善していく先駆者となつて共に取り組んでいければと思っっています。



南丹市女性ネットワーク会議
副会長 木戸 信子 さん

▲女性がはつらつとしている、元気なまちに

分担し支えあって、地域みんなで暮らしを守る▼



有限会社 タナセン
代表取締役 柿迫 義昭 さん

平成9年、美山町にも農協合併による支所廃止問題が起こり、地域拠点の存続を願う住民の声を受けて、平成11年に住民自らが出資して有限会社「みなさまのお店タナセン」ができました。人・情報交流、生活の拠点として、購買・農事・福祉の3本柱を立てています。

鶴ヶ岡地域には18集落あり、高齢化の進む集落も多いので、住民の気力を維持していくこと、里山の景観、田畑をみんなで守っていくことが大事。例えば、タナセンの店先に開く野菜の無人販売には、農家のおいしいちゃんおばあちゃんが毎朝野菜を運び、それを求める消費者があることが励みにもなっています。できるだけ店に来てもらって会話を交わすことが大切ですが、都合で来られない方などには購品を届ける「ふれあいサポート便」という配達事業も始

めました。安否確認も含めてちょっとした話し相手にもなります。配達に出た店員はなかなか帰って来ませんよ。

また、集落の農業を地域全体で守るために広域営農の取り組みをしました。自分の田畑をどう守るかを自分で考え、個人でできない部分は地域で守ろうとする。それでもできない仕事の部分をタナセンが担う。こうして分担して、できることをお互いに助け合うことが地域を守ることだと思っっています。

この地域マネージメントに対して、行政も協力をしていただけのようにお願いしたいと思っっています。